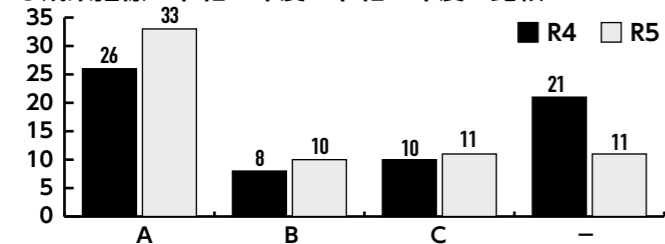


各基本目標の達成状況

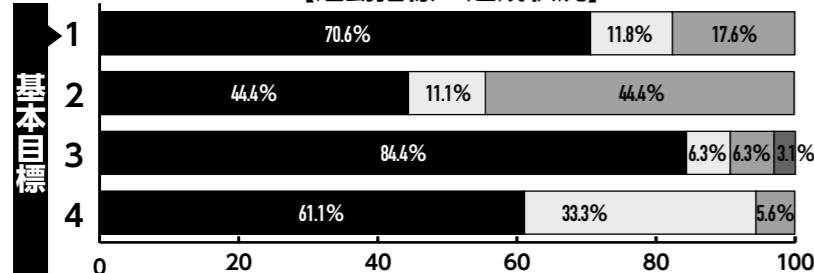
●基本目標1～4の判定の合計

活動指標	指標数	A	B	C	—	合計
		判定割合	71.1%	14.5%	13.2%	1.3%
成果指標	指標数	33	10	11	11	65
		判定割合	50.8%	15.4%	16.9%	16.9%

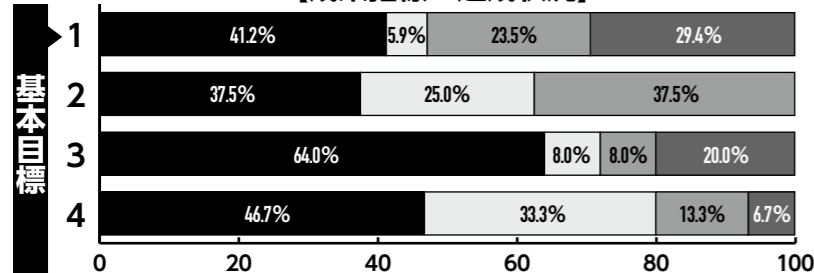
●成果指標の令和4年度と令和5年度の比較



【活動指標の達成状況】



【成果指標の達成状況】



基本目標1～4の判定の合計は、活動指標も成果指標もA判定の割合が高くなっています。また、成果指標の判定結果の合計を令和4年度と比較してみると、A判定が増え「—」判定が減っています。令和4年度は男女共同参画に関する市民意識調査の実施年度でなかったため、調査結果を成果指標としていたものが「—」判定となっていました。令和5年度は意識調査の実施年度であり、令和4年度に「—」判定であった施策のうち7施策がA判定となっています。

活動指標と成果指標の評価結果を基本目標ごとに比較すると、A判定の割合が最も高いものは、いずれも基本目標3です。基本目標3では、ひとり親家庭への支援事業の利用者が増え、就職にもつながっています。基本目標2では、他の基本目標に比べて、いずれの指標もC判定の割合が高くなっています。活動指標では、地域に対する出前講座や研修会などが予定回数を下回ったこと、成果指標では、市民意識調査の結果を成果指標としていたもののうち、一部の数値が悪かったことが影響していると考えられます。

判定基準とグラフの色分け

A	実績値(※)が目標値に達している	B	実績値が基準値(※)から好転しているが、目標値に達していない
C	実績値が基準値から横ばいまたは悪化しており、目標値に達していない	—	市民意識調査などが未実施の年度であり評価ができないもの

※実績値：実際に実施した回数や人数などの数値
※基準値：直近の現状値

男女がともに認め合い 互いに支え合い 自分らしく生きる



第2次田川市
男女共同参画プラン
後期計画 - 年次報告 -

市ホームページで
公開中▶

(※1)活動や提供するサービスがどのような効果をどれだけ上げることができるのかを表す指標
(※2)成果を上げるための活動やサービスなど、行政が行う活動量を表す指標

■数値目標を設定して進捗管理。市民目線で評価しています。

市では、男女共同参画社会の実現に向けて、令和4年3月に「第2次田川市男女共同参画プラン後期計画」を策定し、令和4年度から令和8年度までこの計画に基づく54の具体的施策を推進しています。計画推進のため、各施策の活動指標(※1)と成果指標(※2)に数値目標を設定した進捗管理シートで結果を評価し、見直しや改善に取り組んでいます。行政による自己評価に加え、市民目線の外部評価も取り入れており、市の内部組織のほか外部組織である「男女共同参画審議会(会長：福岡県立大学井上奈美子准教授)」が評価を担っています。

■コロナ禍を経て、男女共同参画社会の実現に向けて引き続き施策を推進中！

本特集では、各基本目標の達成状況や事業の一部を紹介し、後期計画の進捗を報告します。コロナ禍の拡大以前の水準と同じというわけにはいきませんが、各事業がそれぞれ可能な方法で実施できるようになりました。すべての市民がお互いの人権を認め、支え合い、個性や能力を発揮して自分らしく生きられる社会の実現に向けて、引き続き施策を推進します。

報告書は、市男女共同参画センターゆめっせで閲覧できます。また、市ホームページにも内容を掲載しています。

プランの基本目標1～4

1 働く場において男女がともに参画し活躍する(14事業)

- 働く場における男女共同参画の推進
- 女性の能力をいかにする就労環境の整備

2 地域社会において男女が支え合う(7事業)

- 地域における男女共同参画の推進
- 社会環境づくりへの女性の参画推進

3 男女がともに健やかに安心して暮らす(20事業)

- あらゆる暴力の根絶及び被害者支援
- 生活上の困難や人権課題を抱える人々への支援の充実
- 生涯を通じた心身の健康支援

4 一人ひとりを尊重し、男女共同参画意識が浸透する(13事業)

- 男女共同参画社会の実現に向けた意識改革
- 男女共同参画教育の推進

		基準値	実績値	目標値	判定結果
活動指標	性的少数者に関する情報掲載回数	0回 (令和3年度実績値)	4回	1回	A
成果指標	性的少数者という言葉について「見たり、聞いたりしたことがある」と回答した人の割合	51.0% (令和2年度実績値)	69.5%	55.0%	A

【推進委員会の意見】

実績値が69.5%で目標値を上回ったからと言って目標値を70%に変更するというのは消極的ではないか。もう少し高めに設定してはどうか。

【審議会の意見】

変更する目標値が低いからと言って高めに設定するといった安易な数値の操作でよいのか。「見たり、聞いたりしたことがある」ことが成果と言えるのか。

【担当課の対応】

審議会の言われるように、目標値を高く設定することで成果を見出せるかどうかは難しいところですが、今回、実績値が目標値を大幅に上回っていることから目標値の見直しは必要と言えます。推進委員会の意見を踏まえ、目標値を80%に見直したいと考えます。

事業No. 35 性的少数者の権利を尊重する啓発の推進

担当課：人権・同和対策課

【事業内容】

性的少数者に対する正しい理解を深めるため、広報たがわやゆめっせ通信、市ホームページなどを活用した情報提供とともに研修会などを行い、啓発を推進します。

【成果と今後の方向性】

本年度は5月に導入したパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の周知とLGBTについての理解促進を目的にLGBTをテーマにゆめっせフェスタを実施。アンケートでは未回答を除き、全員が「参考になった」との回答でした。今後も引き続き、市ホームページなどで情報発信に努めます。本年度行った簡易版の市民意識調査の結果、成果指標である『性的少数者という言葉について「見たり、聞いたりしたことがある」と回答した人の割合』が69.5%となり目標値の55.0%を上回った(左上の表参照)ため、目標値を70%に変更したいと考えています。

事業の一部を紹介

今回の年次評価の中で、指標の見直しなどを行う施策は8施策で、各事業に関する担当課の考え(成果・課題・今後の方向性)に対して、推進委員会と審議会から意見が出されました。

